

**宝の島を壊すな！戦争するな！
戦争の加害者にも被害者にもならない！**

～基地建設が進む馬毛島の今

1



**「どなたかの馬毛島を返してや」馬毛島基地反対住民訴訟原告団長
和田 香穂里(西之表市議会議員)**



2002年 違法開発前、緑に覆われた馬毛島



2009年頃、違法開発で緑がはぎ取られた馬毛島



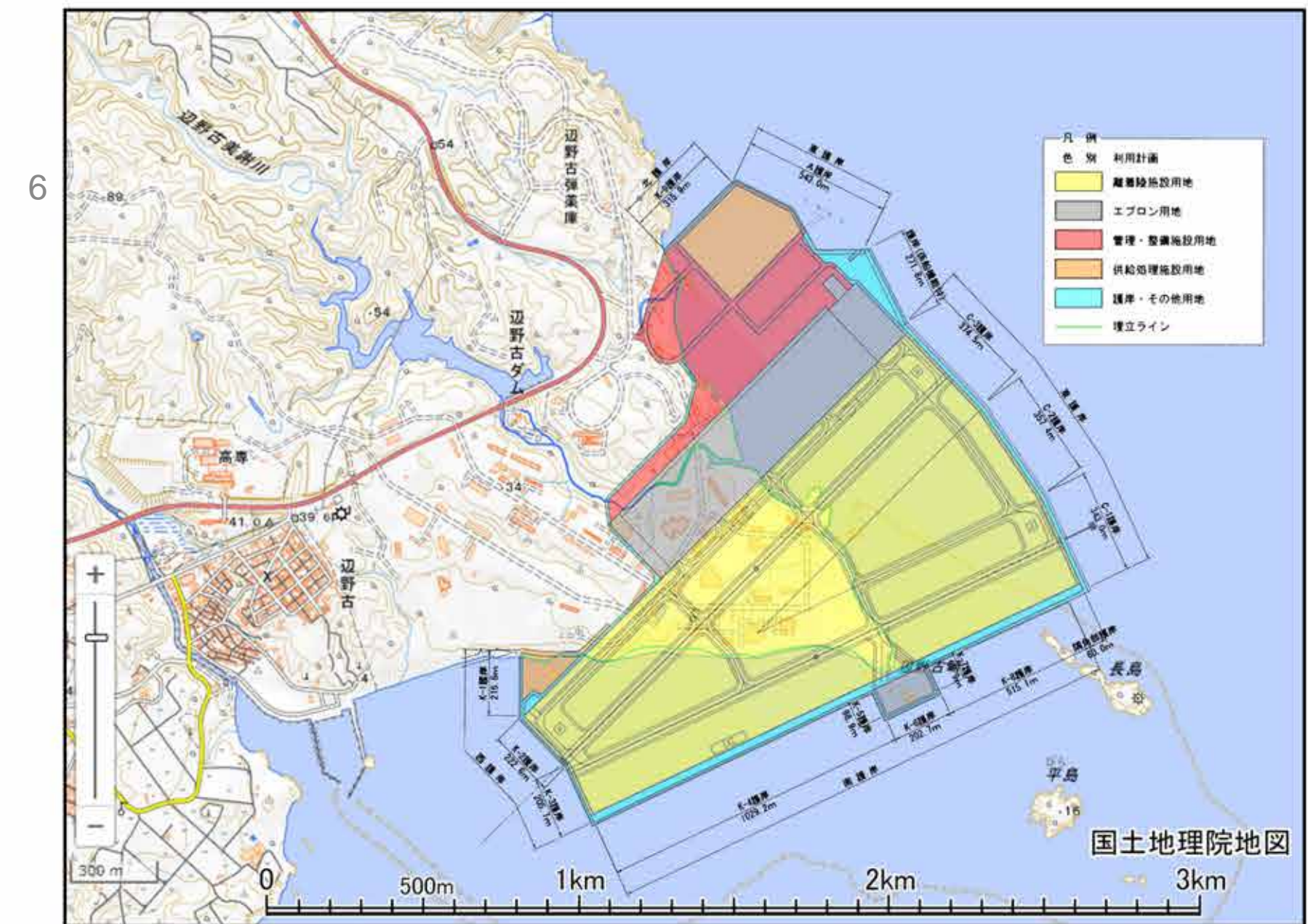
2026年1月 着工3年、基地建設が進む馬毛島



東京ドーム175個相当の「宝の島」が丸ごと巨大な軍事基地に

馬毛島と辺野古新基地の規模の比較

※国土地理院地図で同じスケールで比較してみた



①陸・海・空自の訓練拠点

自衛隊訓練：12種類 年間130日 飛行回数2万3千回

米軍FCLP：深夜～午前3時 年間10～20日 飛行回数5千回

訓練の内容・所要日数（見込み） ※航空機騒音が発生しない訓練や航空機騒音の小さなものは赤枠内に記載

<p>連続離着陸訓練</p>  <p>航空機が連続して滑走路の離着陸を行う訓練のことであり、いわゆるタッチアンドゴーと呼ばれる動作を繰り返して行う訓練 (空自：年間約50日、機動展開訓練に併せて実施) (海自：年間約50日、定期的に実施)</p> <p>(F-35, F-15, F-2等)</p>	<p>模擬艦艇発着艦訓練</p>  <p>「いずも」型護衛艦クラスの甲板及び艦橋を模擬した施設において、F-35Bの短距離離陸・垂直着陸の訓練を行い、操縦士、整備員、航空管制要員等を航空機の運用に習熟させるための訓練 (週約2～3日、年間約100日)</p> <p>(F-35B)</p>	<p>機動展開訓練</p>  <p>航空機、関連器材等を展開先となる場所に移動させる訓練 (F-35, F-15, F-2, KC-767, C-2等) (四半期ごとに約2、3週間、連続離着陸訓練も併せて実施)</p>
<p>離着水訓練及び救難訓練</p>  <p>海上においても離着水できる救難飛行艇US-2を用いた離着水訓練及び救難訓練 (1週間に1回程度、年間約20～50日) ※滞在日程をカウントしていますが、実際に離着水訓練をする時間は限定的です。</p> <p>(US-2)</p>	<p>不整地着陸訓練</p>  <p>航空機が未舗装の滑走路に離着陸する訓練であり、現時点では、本訓練において、航空自衛隊のC-130輸送機の使用を想定 (月約1日、年間約10日)</p> <p>(C-130)</p>	<p>エアクッション艇操縦訓練</p>  <p>陸上及びその沿岸部において、LCACと呼ばれるエアクッション艇の操縦訓練 (約1日を年4回、年間約4日)</p>
<p>水陸両用訓練</p>  <p>離島防衛を想定し、ポートや水陸両用車等を用いて着上陸を行う訓練 (約5日を年2回、年間約10日)</p> <p>(AAV, エアクッション艇等)</p>	<p>救命生存訓練</p>  <p>航空機に緊急事態が発生し、機体が海上に不時着したり、搭乗員が落下傘で海上に降下した場合を想定し、搭乗員が救助されるまでの間生存する方法を訓練 (7～9月の間で2、3回、年間約10日)</p>	<p>ヘリコプター等からの展開訓練</p>  <p>回転翼機等を用いて部隊を迅速に目的地へ展開する訓練 (約3、4日を年1回)</p> <p>(CH-47, V-22)</p>
<p>空挺降投下訓練</p>  <p>航空機から、落下傘を用いて、地上の目的場所へ人員の降下及び物品等の投下を行う訓練 (約3、4日を年1回)</p>	<p>災害対処訓練</p>  <p>ヘリコプターによる人命救助や航空機による物資輸送など、災害対処能力の向上を図るための訓練 (9月頃に1回、年間約3日)</p> <p>(UH-60)</p>	<p>PAC-3機動展開訓練</p>  <p>展開先となり得る場所において、PAC-3の迅速かつ円滑な展開ができるよう、器材及び人員の移動や器材展開の手順を確認する訓練 (約5日を年2回、年間約10日)</p>

※自衛隊馬毛島基地(仮称)における訓練については、現在、各自衛隊において、実施時期、期間、規模、内容等を検討しているところです。そのため、本資料は、過去の類似の場所・内容の訓練における実績等に基づき、現時点での主な自衛隊の訓練所要の見込みを示すものとなっております。細部については、今後、各自衛隊の中で検討されます。また、上記以外の装備品を使用した訓練を行う可能性があります。

※FCLP実施中は自衛隊の訓練を実施しません。

※上記の訓練について、異なる訓練を同日に実施することもあります。

② 整備補給等後方支援における活動を行い得る施設

わが国島嶼部に対する攻撃への対処のための活動場所として、また、災害等発生の際、一時的な集積・展開地として活用します。

例えば、災害が大規模・長期化した場合でも、馬毛島に人員・装備を集積できれば、効果的・効率的に対応が可能になります。

例：大規模災害時における展開・活動（イメージ）



【参考1】鹿児島県における近年の災害派遣実績（2019年度）
2件（屋久島・口永良部島）

【参考2】大規模災害時に集積・展開地として活用した事例

- ・熊本地震（2016年）：陸自高遊原分屯地（熊本空港）
- ・北海道胆振地震（2018年）：空自千歳基地

琉球弧での戦闘を後方支援する兵站拠点
「大規模災害時」を例に説明する
まやかしの防衛省資料

米軍空母艦載機離着陸訓練（FCLP/NLP）では、昼夜を問わずジェット戦闘機が離着陸（タッチアンドゴー）をくりかえす。厚木で、岩国で、新田原で、「耐え難い騒音」と裁判で認められ、賠償金が支払われても、飛行差し止めにはならない爆音！

連続離着陸訓練・模擬艦艇発着艦訓練・FCLPに係る主な訓練範囲

連続離着陸訓練

航空自衛隊

○主にF-35、F-15、F-2の戦闘機が、FCLPと同程度の範囲でタッチアンドゴーの訓練を実施。
※地元への影響に配慮した飛行経路も検討

海上自衛隊

○主にP-1、P-3Cの哨戒機が、馬毛島を中心とした半径5海里（約9km）程度の範囲でタッチアンドゴーの訓練を実施。

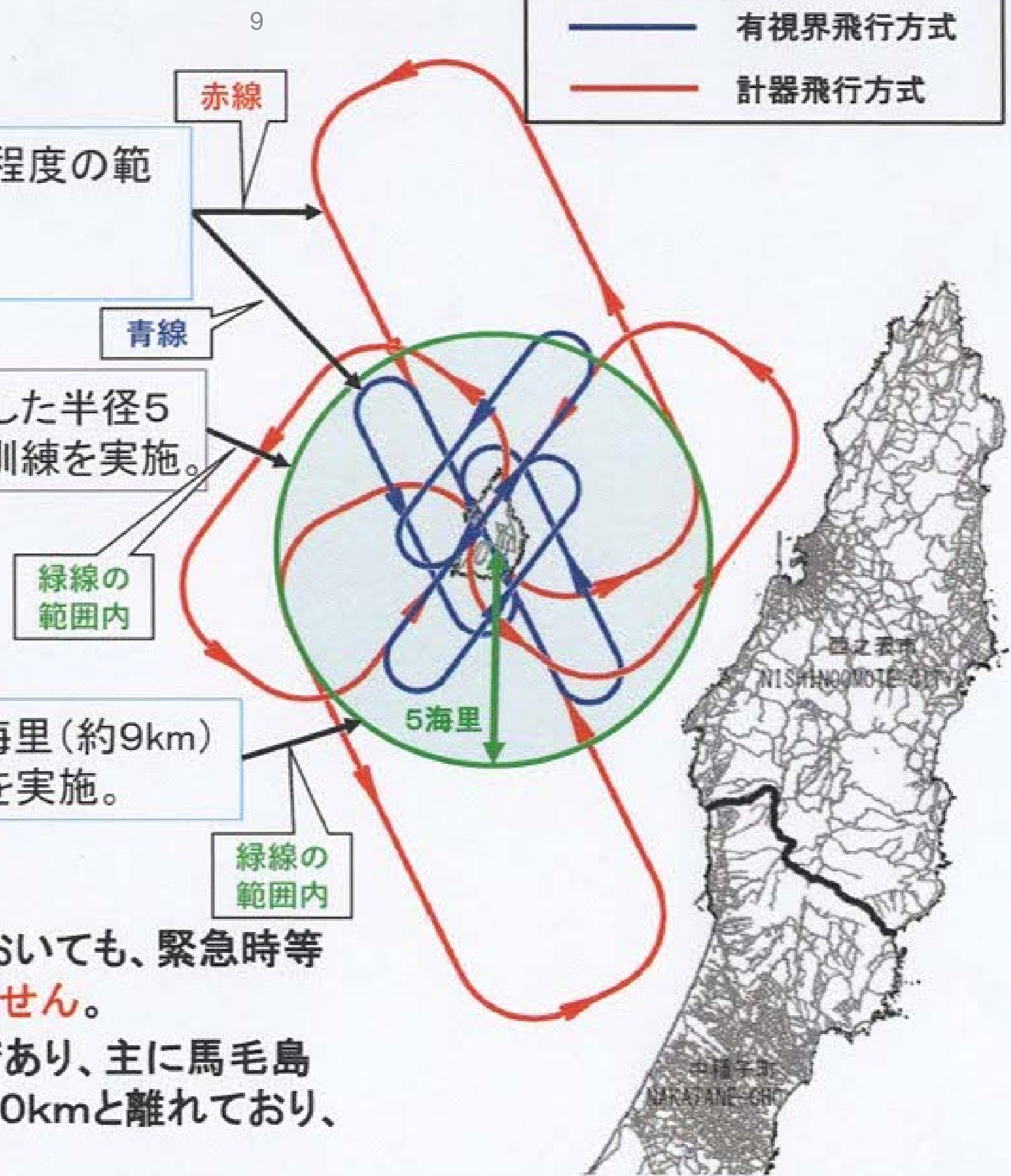
模擬艦艇発着艦訓練

航空自衛隊

○F-35B戦闘機が、馬毛島を中心とした半径5海里（約9km）程度の範囲で、短距離離陸や垂直着陸の訓練を実施。

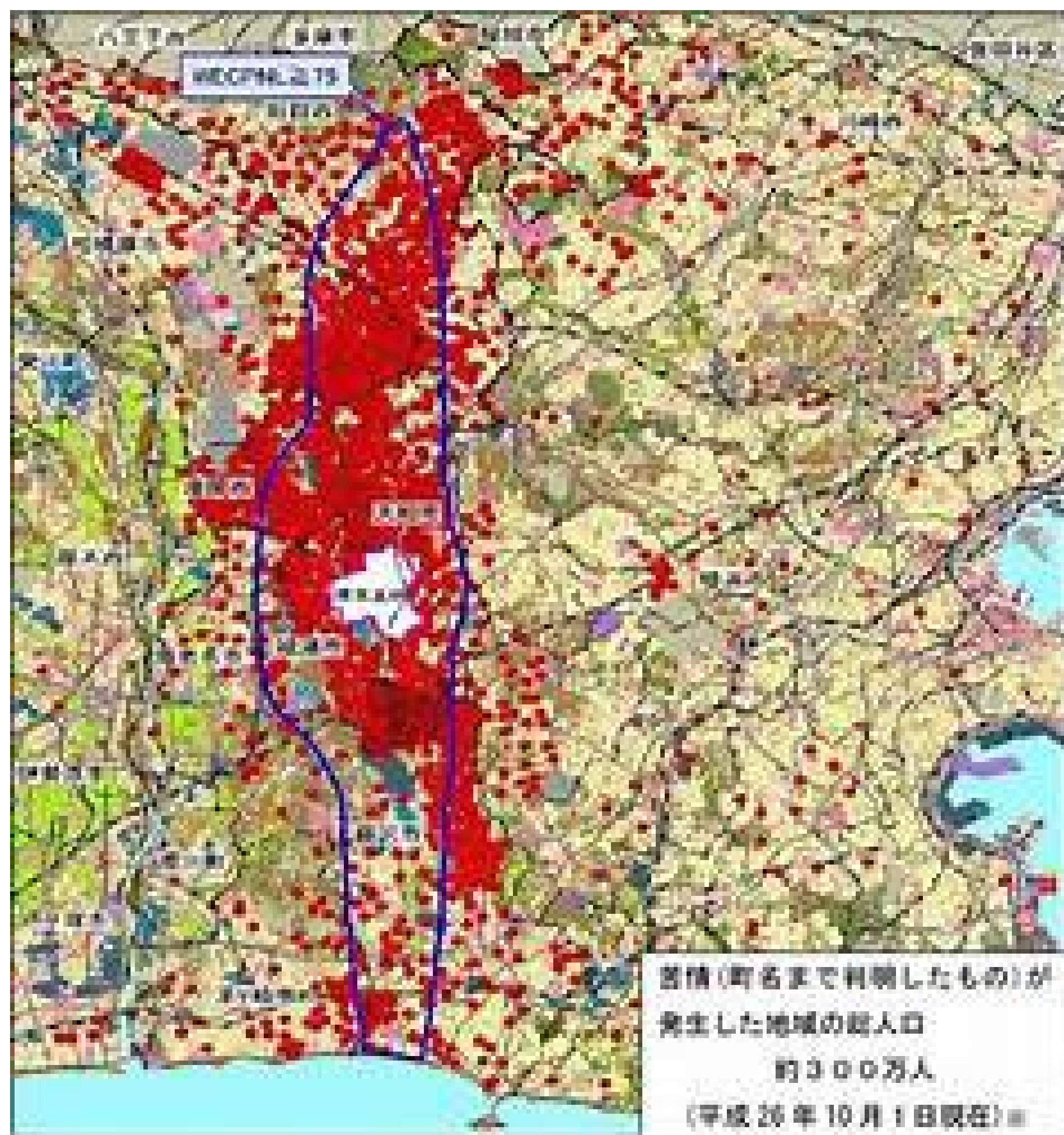
【FCLP飛行経路】

- 有視界飛行方式
- 計器飛行方式

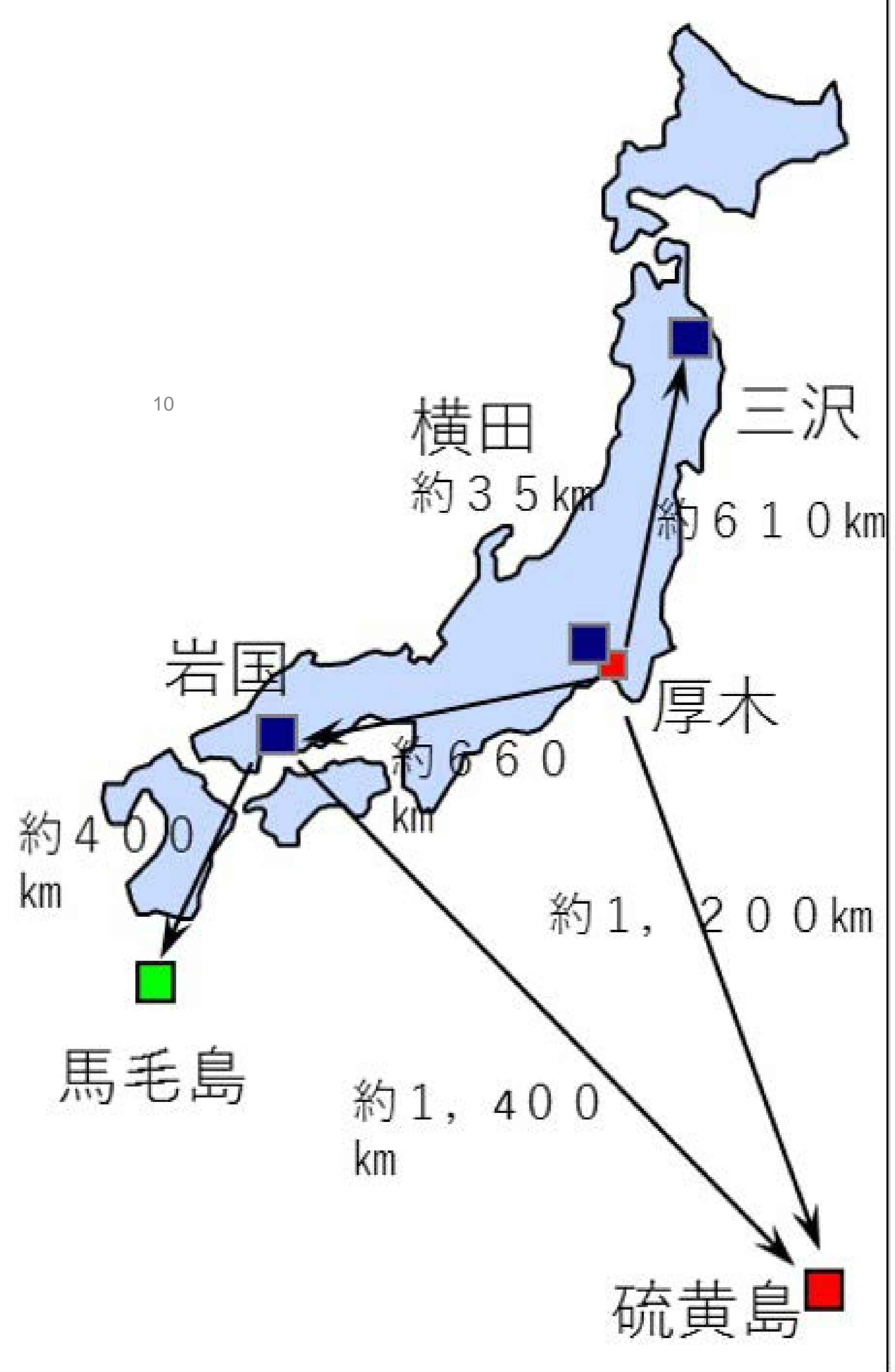


⇒米軍が行うFCLPと同様に、自衛隊の訓練においても、緊急時等を除き種子島上空を飛行経路とすることはありません。

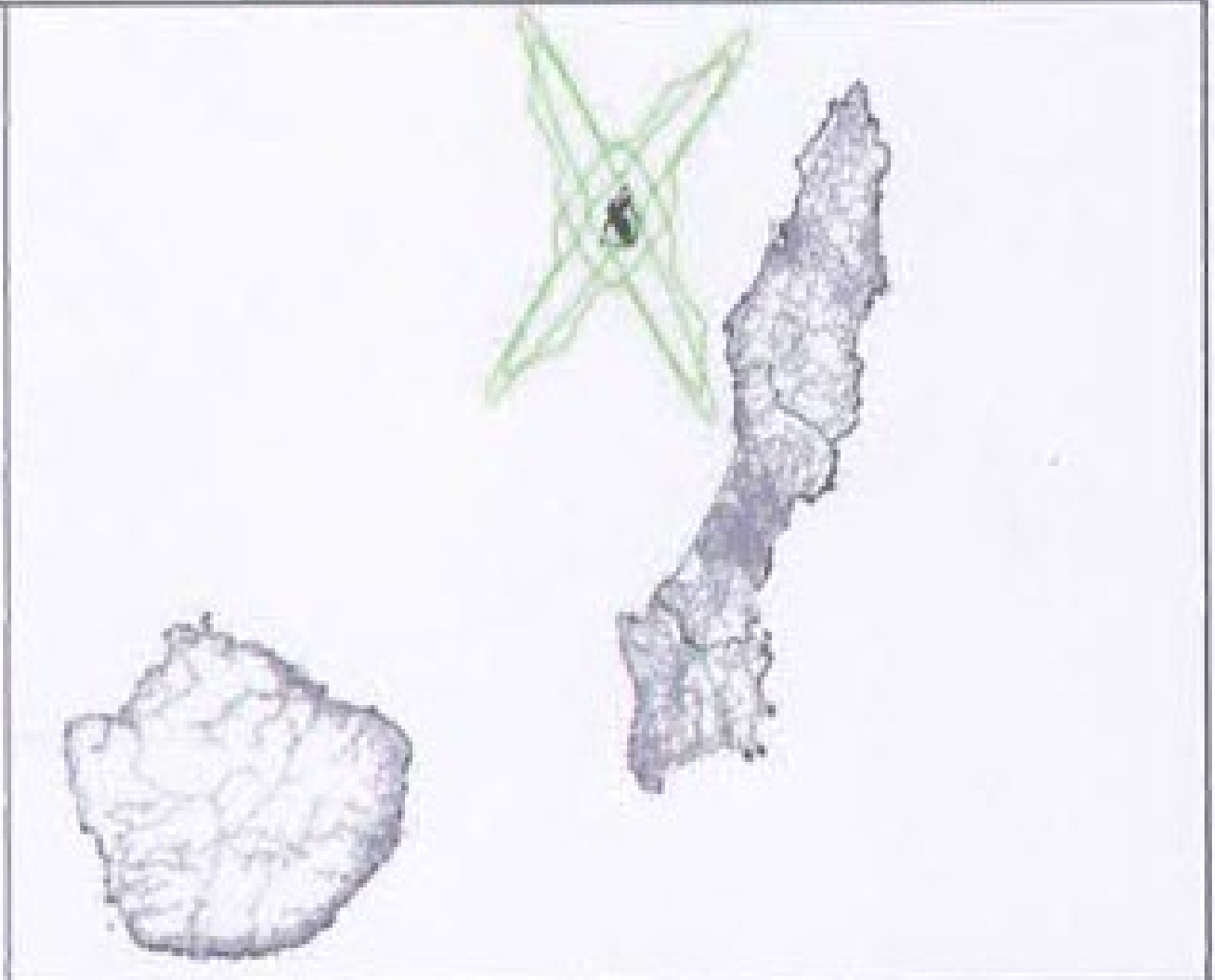
⇒特に大きな騒音が発生するのは離着陸の際であり、主に馬毛島周辺での騒音となります。馬毛島と種子島は約10kmと離れており、航空機騒音も限定されます。



位置関係



厚木飛行場 (過去の空母艦載機の拠点)



自衛隊馬毛島基地着工までの経緯

- 2011年 6月 ・日米安全保障協議委員会(ツープラスツー)共同文書で馬毛島が米軍FCLPの候補地とされる
- 2017年 3月 ・八板俊輔氏が「馬毛島軍事施設絶対反対」で市長初当選
- 2019年11月 ・防衛省と地権者が160億円で馬毛島買収合意
- 2021年 1月 ・八板市長「国の計画には同意できない」と、賛成派候補を僅差で破り二期目当選
- 2021年12月 ・防衛省が種子島1市2町に米軍再編交付金の支給意向を伝達
- 2022年 1月 ・ツープラスツーで馬毛島が「整備地」とされる
- 2022年 2月 ・八板市長が防衛省に「特段の配慮」を要望
- 2022年 9月 ・馬毛島小中学校跡地・隊舎用地(市有地)の売却案と馬毛島市道廃止案が可決(11月売却)
- ・3市町が米軍再編交付金支給対象と指定される
- 2022年11月 ・塩田康一鹿児島県知事が基地計画容認を表明
- 2023年 1月 ・市町リコール運動、署名が必要枚数に達せず
- ・アセス評価書広告と同日に**本体工事着工**
- 11月 ・**住民監査請求棄却**

着工後の主な動き

- 2023年12月 ・住民訴訟提訴(11月、住民監査請求棄却)
- 2024年 6月 ・馬毛島先遣隊発足
- 2024年 9月 ・工期3年延長を発表—2030年3月完成予定
 - ・2028年には米軍FCLP運用開始予定
- 2024年12月 ・地中から大量のゴミで市内自衛隊宿舎工事中断
- 2025年 2月 ・賛否に触れず、八板市長3選、議会は賛成派多数に
 - ・工事契約金額「25年度までに1兆円超」の報道、
随意契約を重ねて天井知らず—43兆円の枠外
- 2025年 7月 ・先遣隊、中種子町隊舎に居住開始
- 2025年 9月 ・先遣隊馬毛島勤務開始
- 10月 ・先遣隊発足記念行事に三市町首長ら参加
 - 異例中の異例という自衛隊主催の無料招待
- 10月 ・自衛隊統合演習(実動演習)、最大規模で実施
 - 民間空港、港湾、道路を使用した戦時体制作り
- 10月 ・作業員最大6040人に
- 11月 ・宮崎県新田原基地でF35B訓練開始
 - 馬毛島基地工事遅れを理由に強行
- 2026年 1月 ・着工3年
- 3月 ・日米共同訓練アイアン・フィストでオスプレイ飛来

2023年11月

住民監査請求が門前払い

2023年12月

原告30名が、

「どんたちの馬毛島を返してや」
馬毛島基地反対住民訴訟提訴

鹿児島地裁で、これまで6回の
口頭弁論期日が開かれ、
7人の原告が意見陳述を
重ねている。



- ①馬毛島を失う市民に対しての損害賠償を国及び八板俊輔（個人）に対して求めるよう、西之表市長に請求する（義務付け）
- ②馬毛島の市道廃止は無効であることを確認する
- ③市道廃止処分を取り消す

※八板俊輔西之表市長の行った馬毛島中学校跡地売却、市有地売却、市道廃止が違法、不当であり裁量権を逸脱・濫用するものであると訴えている。

馬毛島90人先遣隊発足

施設整備遅れ 来年度60人島勤務
福岡春日基地



防衛省は24日、西之表市馬毛島で整備が進む自衛隊基地の滑走路点検などに当たる馬毛島先遣隊が空自春

日基地（福岡県春日市）に発足したと発表した。約90人でうち約60人が2025年度中に馬毛島で勤務を始める。同省は昨年9月、施設全体の完成時期を30年3月末へ3年延期すると発表した。先遣隊は24年度から馬毛島に配置する予定だった

が、施設の整備が遅れているため、西部航空方面隊司令部が置かれている春日基地に変更した。基地整備は工事関係者5530人が従事し（2月末時点）、滑走路の造成工事や管制塔の本体工事を進めている。

（永山一樹）

馬毛島先遣隊 7月にも中種子居住



西之表市馬毛島の米軍空母艦載機陸上離着陸訓練（FCLP）を伴う自衛隊基地整備を巡り、防衛省は25日、航空自衛隊馬毛島先

遣隊が7月にも中種子町の隊員宿舎に居住する方針を明らかにした。基地の早期運用開始に向け、約60人が宿舎から馬毛島に通い、勤務を始める見込み。同省によると、先遣隊は西部航空警戒管制団の隷下

部隊で3月24日、空自春日基地（福岡県）に発足した。同基地では馬毛島基地（仮称）の運営に必要な規則作成などに従事する。規模は約90人でうち約60人は7月にも同島で上下水道や電

品の受け入れ、維持整備を担う。中種子町の隊員宿舎は、旧種子島空港周辺に整備している。同省は昨年9月、施設全体の完成時期を2030年3月末へ3年延期すると発表した。先遣隊は24年度から馬毛島に配置予定だったが、工期が遅れているため春日基地に変更した。

（永山一樹）



中種子町内の自衛隊宿舎
既に完成し、2026年3月現在、
数十世帯が入居している？

馬毛島基地工期3年延長

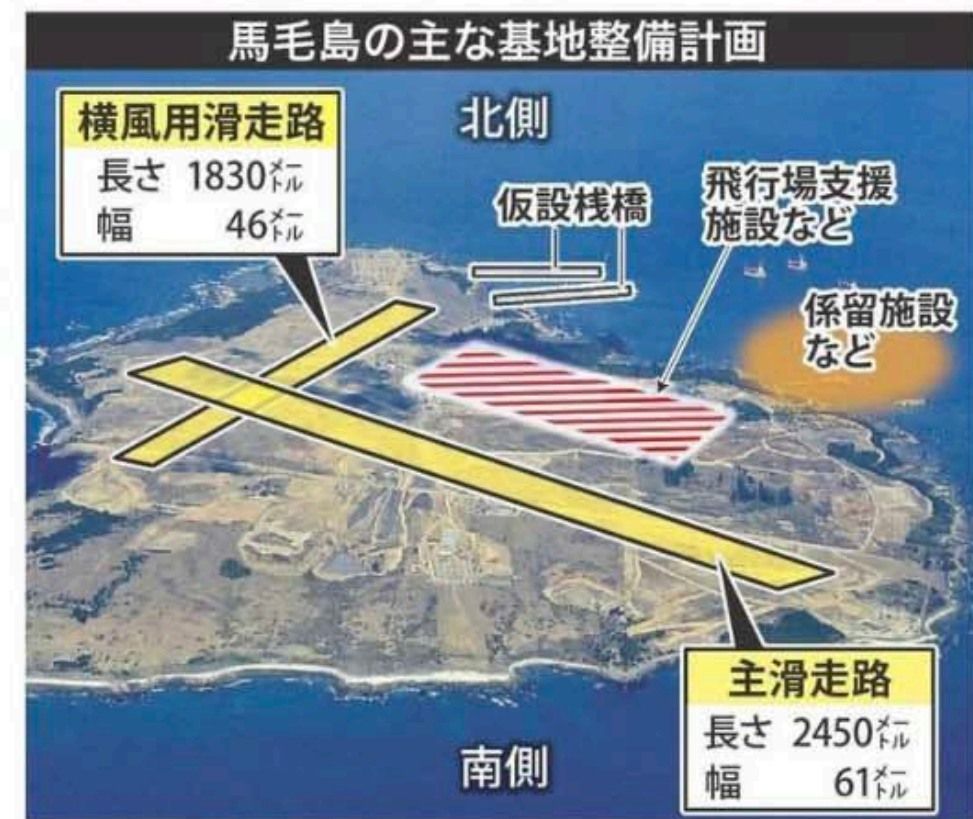
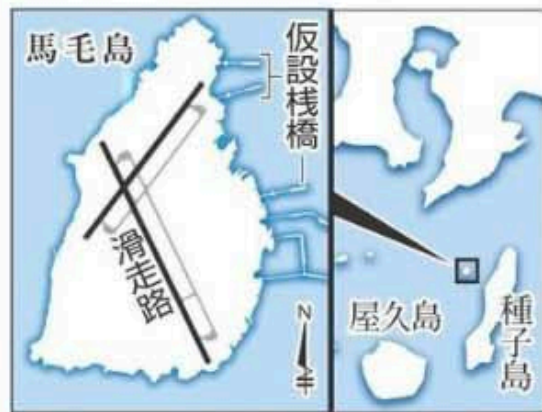
防衛省 波高く物資輸送遅れ

米軍空母艦載機陸上離着陸訓練（FCLP）移転を伴う西之表市馬毛島の自衛隊基地整備で、防衛省は10日、施設全体の完成時期を当初計画より約3年延期し2030年3月末になると発表した。波の高さや能登半島地震の影響による人手と資機材不足などが理由。FCLPは28年1月以降になる見込み。（19面に関連記事）

完成予定
30年3月
FCLP 28年1月以降



防衛省は10日午前、種子島の1市2町と鹿児島県庁を訪れ工期延長を伝えた。八板俊輔市長は「市民生活



※防衛省の環境影響評価や説明に基づく

への影響が長引くことが危惧される。不安の声に耳を傾けたい。塩田康一知事

基地本体は23年1月に着工、4年程度で完成する計画だった。同省は現場の状況を精査し、滑走路など飛行場施設の工程を約3年延長。飛行場関連施設や港湾施設も2〜4年遅れる。FCLPに必要な滑走路の建設は27年に終了する見通し。関係者によると、米側が工事を急ぐよう求める状況ではないという。同省によると、波や風で重機などを運ぶ船が出せない日が多く、1カ月当たり約10回の輸送は予定の3分の1程度だった。能登半島地震の被災地に人員や資機材が送られたことも影響し、馬毛島の仮設宿舎建設が遅延。24年2月時点で島内の工事関係者は4千人と見通して

地元議会に国説明なし



西之表市馬毛島の自衛隊基地整備は、工期が3年遅れの2030年3月末に延長された。住民生活や地場産業への影響が長期化しかねない中、防衛省の一連の対応に地元では不信感が渦巻く。新たな工程の説明は市長にとりまじり、かねて直接の情報提供を求めている市議会や市民は蚊帳の外に置かれた格好だ。同省が着工前、再三強調して

馬毛島基地工期3年延長

第29652号

2024年(令和6年)9月18日 水曜日



八板俊輔市長との面会を終え、応接室を後にする防衛省職員＝10日、西之表市役所（緒方隆撮影）

きた「地元の理解」のあり方が改めて問われている。10日前、同省の原田道明九州協力調整官が八板俊輔市長を訪ね、工期延長について報告した。折しも市議会は定例会の会期中。この日は常任委員会が予定され、市議の約半数が市役所

■届かぬ声
基地整備を巡り、市議会

住民理解へ問われる姿勢

は21年9月に賛成派市民の請願を受け、国に「速やかな説明」を求める意見書を可決した。馬毛島対策特別委員会でも直接説明を繰り返し要望したが、実現したのは3回だけ。種子島への関連施設配備案が示された21年12月、隊員宿舎候補地の説明があった22年7月、馬毛島に3千室以上の仮設宿舎を設置するとして23年2月が最後だ。

馬毛島の自衛隊施設整備事業の工事工程

工事区分	工事工程						
	2023	24	25	26	27	28	29年
飛行場施設							
飛行場関連施設							
駐機場等施設							
航空保安施設							
格納庫							
飛行場支援施設等							
貯蔵関連施設							
訓練施設							
港湾施設							
係留施設等							
揚陸施設							
仮設棧橋							

模とされた工事関係者のピークはまだまだ見えない。昨年5月に推移見込みが公表されたものの、当初1年後だったピーク時期は優に過ぎ、今年6月28日時点で約3680人にとどまる。関係者間では「作業員は多くても4500人弱」というのが共通認識だ。ピークは来年10月から1年程度とみられ、飛行場施設の運営開始時期は28年3月ごろが見込まれるという。ただ、市は新たな見通しを防衛省から示されておらず、不透明な進め方が市民の不安をおよぼす要因にもなっている。同省は「工期延長を公表した。今回はスピードを重視した。地元のを踏まえ、丁寧に説明したい」としている。（緒方隆、永山一樹）

いたが、8月末になっても仮設宿舎は2290室にとどまる。人手が不足する一方、島内は土地を平らにするための盛り土に使えない粘土質の土が想定より多く作業量が増えた。

離島環境の見通し甘く

西之表市馬毛島の自衛隊基地整備の遅れは以前から関係者間でささやかれており、防衛省がようやく公表した整備計画は「地元への影響が最小限になるように自治体と連携して対応する」としている。（馬毛島取材班）

事関係者が一定の経済効果をもたらす一方、しわ寄せを受けている業界も少なくない。長期化で格差はさらに広がりがかねない。同省は延長理由に波が高くて海上輸送が遅れている点を挙げた。「インフラを整っていない離島という特殊な条件」の厳しさが浮き彫りになった。裏を返せば見通しの甘さでもあり、計画を作成した過程の検証と丁寧な地元説明が不可欠だ。着工から1年8カ月。関

係者の拠点となる種子島では、住宅不足や家賃高騰、医療機関の逼迫（ひっ迫）など住民生活への影響が続く。農業を中心に基地整備に人材流出が後を絶たず、工事が長引くほど地場産業への打撃は大きくなる。市町だけで対応するにはヒト、カネ、情報が足りない。工事を進めたい国、容認した県が地域への影響を精査し、基地整備による「ひずみ」の解消に乗り出す時期が来ている。（永山一樹）

馬毛島基地 西之表宿舎の工事中断

11月から 土中に廃棄物多数

西之表市馬毛島の自衛隊基地整備に絡み、同市の下西校区に新設される隊員宿舎について、土中から多量の廃棄物が掘り出されたため、工事を約2カ月中断していることが防衛省への取材で29日までに分かった。建設地周辺は、1960年代に「塵芥処理場」だった旨の記述が、過去の市広報紙などに残されている。11月1日から止まっている工事は再開の見通しが立っていない。



工事が中断している自衛隊員宿舎の建設地
—29日、西之表市西之表（緒方隆撮影）



建設地は元市有地で、面積7029平方メートル。市と省は2022年11月末、2260万円（土地代のみ）で売却契約を結んだ。南日本新聞は防衛省と西之表市に、それぞれメール、文書で中断の経緯や建設地の選定過程について質問した。同省は「掘削作業中に人の頭の大きさ程の石、空き瓶や古タイヤなどの地中

障害物が確認された」とし、「宿舎用地として利用する候補地を市に求め、市側か

60年代ごみ処理年500ト超

西之表市の自衛隊員宿舎の建設地一帯が「谷間の地」を形成していることが、市側から防衛省が下西校区を選定したと認識している。市が選定したという事実はない」と主張。土地資料を提供する際には「ファイル名に「旧塵芥処理場」と明示し、同省職員が同行した用地調査でも「口頭で説明するな」として説明している。工期延長や廃棄物対応による事業費の追加が懸念される中、両者の認識には隔

たりがあり、現時点では責任の所在が不明確になっている。南日本新聞が情報開示請求した「不動産売買契約書」には、土地利用履歴に関する記述はなかった。西之表市の隊員宿舎は当初の発注予定で地上5階建て3棟だったが、10階建て（高さ約33メートル）97戸分に変更された。建築計画概要書では、26年1月末の完成予定となっている。（緒方隆、永山一樹）

自衛隊宿舎 建設地ごみ谷跡に集中

西之表市 掘削調査 土壌・水質はクリア

中のごみが確認された一方、建設地中央付近などではごみが出ない場所もあった。土壌や水質の汚染調査も行われ、いずれも環境基準をクリアした。（21面に関連記事）

建設予定地は面積7029平方メートル。一帯は1960年代に「塵芥処理場」だったとされる場所。谷間にごみが捨てられ、後に埋め

立てられた。建設地を挟むように谷筋があったとみられることから、市は隣接地を含めて調査地点を10カ所設け、元々の地形と埋設物を調べた。約1100万円かけ6～8月に実施した。

市によると、谷の近辺だったとみられる7地点では、最も浅い所で地下0・7メートル、深い所は同約13メートル、プラスチックやゴム類、瓦などがあつた。ごみを含む埋設層の厚さは最大11メートル、最小2メートル程度。谷ではなかったとみられる3地点では、最大11メートル掘削したがごみは確認されなかった。

このほか市は、建設地そばの1カ所で、埋設層の直

市、1100万円かけ掘削調査

現予定地で建設求め

西之表市馬毛島の自衛隊基地整備に絡み、同市下西校区での自衛隊宿舎建設が大量のごみの出土により停止している問題について、市は22日の市議会馬毛島対策特別委員会で、現地のボーリング調査をしていると明らかにした。費用は約1100万円。市の準備費を活用。地盤やごみの有無を確認した上で、防衛省に結果を提示し建設続行を求める考えだ。

土中にごみ、工事中断



自衛隊宿舎の建設地付近で行われているボーリング調査
—18日、西之表市西之表

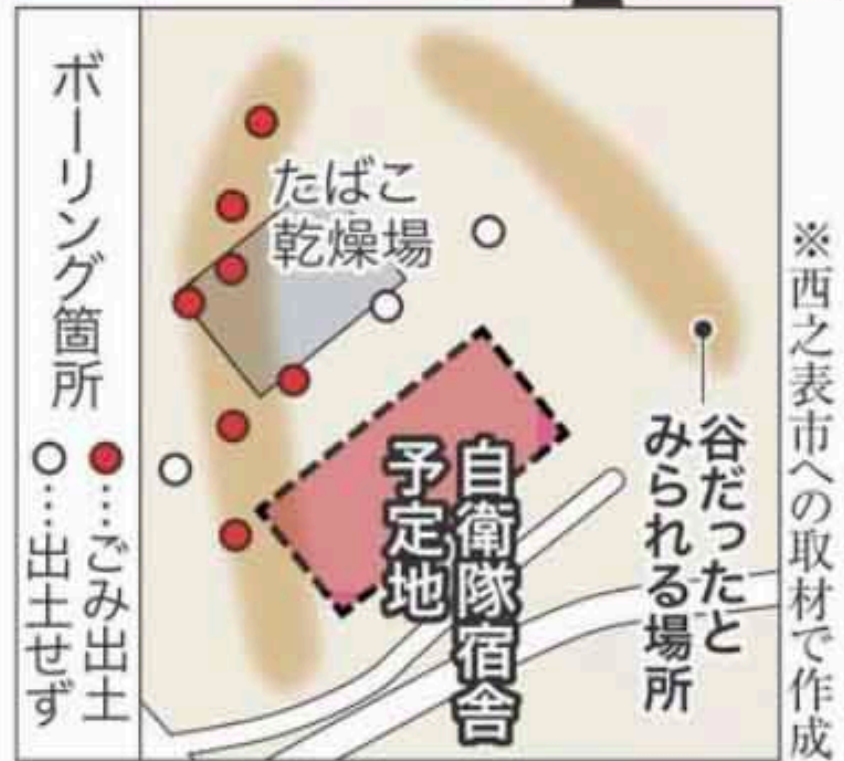


建設地は元市有地の7029平方メートル。防衛省が2022年に2260万円で購入し、10階建て1棟、97戸分の建設を進めた。市によると、ボーリング調査は6月24日から8月中旬まで、防衛省所有の宿舎建設地と、隣接する市有地でタバコ乾燥場の敷地の計5カ所程度で、最大10メートル掘って調べる。建設地は1960年代にみ処理場

だったとされる場所。後に古タイヤや空き瓶の頭の大きさ程度の石

2025年(令和7年)9月13日 土曜日

第30001号



※西之表市への取材で作成

西之表市長 八板氏3選

基地「黙認」、5新人破る

任期満了に伴う西之表市長選は2日投票開票され、現職の八板俊輔氏(71)が新人5人を抑えて3期目の当選を果たした。八板氏は馬毛島の自衛隊基地整備について賛否に触れず、市民の安心安全確保に向けた国との継続的な協議の重要性を訴え、支持をつなぎ止めた。新市議14人も決まった。

馬毛島を巡る対応への不満から、2017年に並ぶ最多6人の戦いとなった。いずれも無所属。八板氏は過去2度の選挙で基地整備に反対の立場を取っていた。今回、事実上の黙認姿勢が信任されたことで、「基地反対」の流れは弱体化が避けられない。基地整備が始まってから初めての市長選。市民生活への影響が顕在化する中、



当選者の略歴
八板 俊輔(やいた・しゅんすけ) 市長、全国離島振興協議会理事、日本ボルトガル協会理事(朝日新聞記者、納骨町内会長) 早稲田大卒、西之表

西之表市長選開票結果

(2日午後9時30分、選管最終)

当	2,656	八板 俊輔	71	無現③
	2,074	池田恵衣子	70	無新
	1,016	鮫島 齊	47	無新
	1,016	鎌田 孝章	45	無新
	948	三宅 公人	72	無新
	803	濱上 幸十	74	無新

八板氏は「基地ができるのであれば、失うものを超える恩恵を引き出す。国に正確な情報と判断材料を求めていく」と主張。3期目を「仕上げのとき」に位置付け、保守層を取り込みながら支持離れを防いだ。池田氏は「基地の賛否を言う時期は終わった」とし、1次産業の再生や教育・福祉の充実を掲げた。自民党の友好団体を中心に浸透を図ったが、582票差をつけられた。唯一反対を掲げた医師三宅公人氏(72)は、馬毛島の米軍機訓練の中止を前面に打ち出したものの、基地整備が進む現状から反対派

馬毛島基地 「隊員と共存共栄図る」

八板市長、賛否は示さず

西之表市の八板俊輔市長は29日開会した市議会定例会の所信表明で、馬毛島の自衛隊基地整備について「国は立ち止まる気配を見せない」と指摘する一方、今後の方針を巡っては「種子島駐在の自衛隊員と共存共栄を図る」と述べた。賛否には踏み込まず、「正確な情報収集と市民への判断材料の提供、最善の道の選択が基本だ」と従来の考え方を繰り返した。

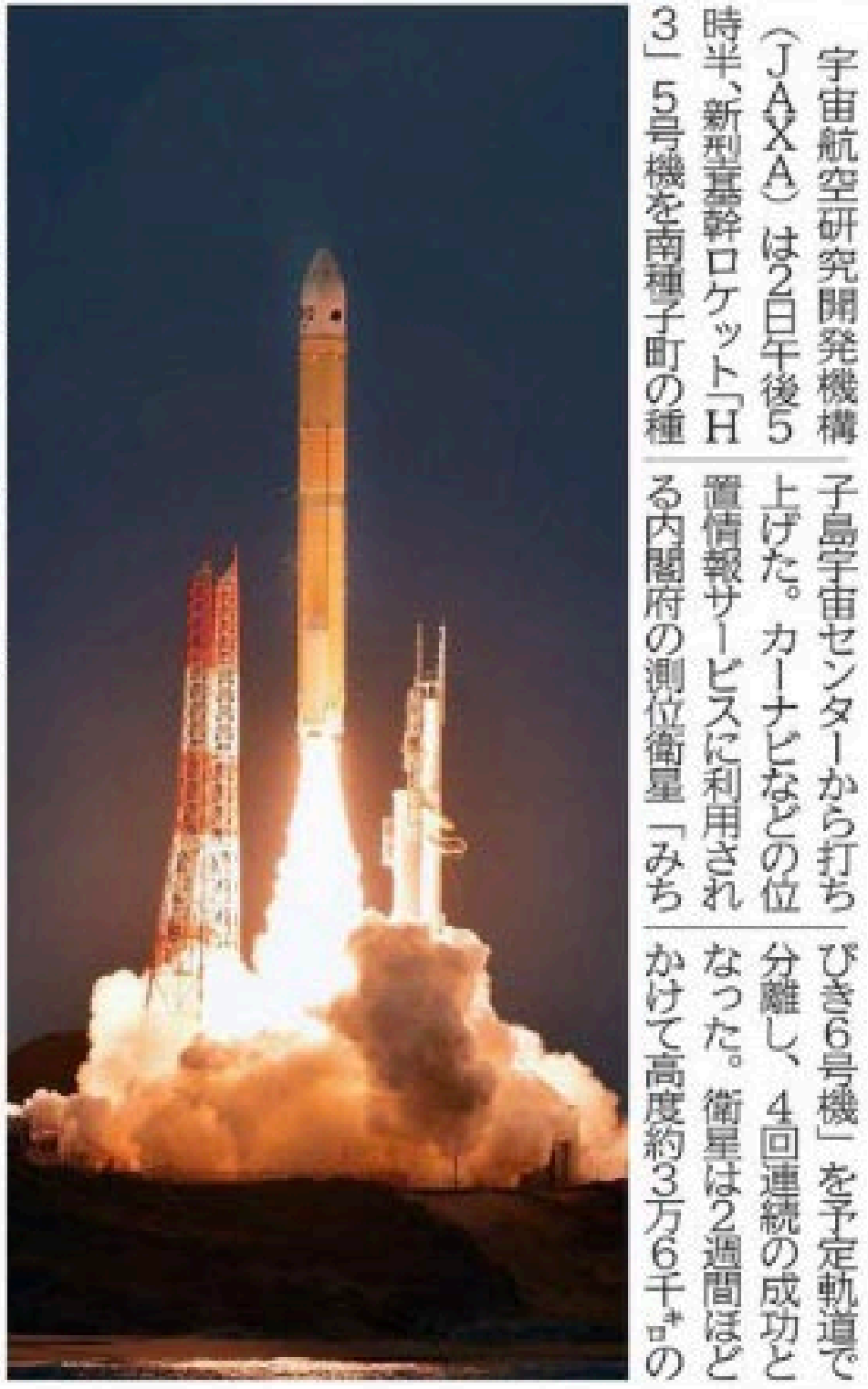


来年2月に次期市長選を控え、2期目で最後の所信表明で馬毛島の基地整備について考えを述べる八板俊輔市長は29日、西之表市役所

市民をまとめきれなかった。14議席を17人で争った市議選は現職9人、新人2人、前職1人、元職2人が当選した。党派は立憲民主1、共産1で、他は無所属。当日有権者数は1万1947人(男5771人、女6176人)。市長選の投票者総数は8589人(有効8513、無効76)。投票率は71・89%で、前回21年を8・28ポイント下回った。市議選の投票者総数は8

H3、4連続成功

みちびき 軌道投入



宇宙航空研究開発機構「種子島宇宙センター」(税務院撮影) 2日午後5時半、南種子町の種子島宇宙センターから打ち上げた。カーナビなどの位置情報サービスに利用される内閣府の測位衛星「みちびき6号機」を予定軌道で分離し、4回連続の成功となった。衛星は2週間ほどかけて高度約3万6千キロ

解決できる問題ではない」と強調した。賛否の明言を避けた理由について、八板市長は本会議終了後の取材に「着工後に生じた問題の対応を優先している。中立という立場とも違う」と説明した。八板市長は過去2度の市

国の進め方 不信にじむ

西之表市馬毛島の自衛隊基地整備を巡る八板俊輔市長の所信表明は、「賛否両にらみ」の姿勢を打ち出した内容と言える。再び「反対」に立ち返る可能性を残すことで、市民生活に影響を与える国の進め方にくぎを刺し

長選で基地整備に反対の立場を取った。しかし、22年1月に日米両政府が米軍機訓練移転を伴う基地の整備地に馬毛島を正式決定したことで「新たな局面に入った」とし、現在まで賛否を明言していない。(緒方隆) 文化」や深夜訓練を避けるよう国に求めてきた。ただ現時点で担保は得られておらず、こうした国の地元との向き合い方が不信を拭えない一因となっている。とはいえ、所信表明の意図が市民に伝わるかは疑問が残る。来年2月の次期市長選には、ほかに新人6人が立候補の意向を表明。それぞれ基地整備への考え方が明確なだけに、3期目を目指す八板氏の発言には「舌足らず」の感が拭えない。着工前後を担った行政の長として、明確な説明が求められる。(緒方隆)

御菓子歳時記
立春
春告花
御菓子屋 明石屋
創業安政元年

589人(有効8476、無効113)。投票率は71%で前回は8・26ポイント下回った。(緒方隆)

工事着手後3年で1兆円、総事業費は示されないうまま随意契約を重ねて膨れ上がる工事費は私たちの税金だ。

馬毛島契約額1兆226億円

12～25年度 防衛省が資料提出 衆院予算委

西之表市馬毛島への米軍空母艦載機陸上離着陸訓練（FCLP）移転を伴う自衛隊基地整備を巡り、2012年度予算から25年度予算案までの契約ベースの累積額が1兆226億円に上ることが10日の衆院予算委員会で明らかになった。

共産党の田村貴昭議員（比例九州）の求めに応じ防衛省が資料を提出した。資料によると、12～21年度は当初予算で調査費など1～6億円を計上。基地本体工事が始まった22年度以降

は当初と補正予算を合わせて多額を積み上げ続けている。歳出ベース予算額と支出済み額の累積はそれぞれ8457億円、3327億円。事務費は除いている。予算委で田村氏は「いま

だに基地建設の総額が示されていない。一体いくら



になるのか」と追及。中谷元防衛相は「工事着手から約2年しか経過していないため、総事業費を現時点でお答えできない」と述べた。

基地の係留施設について田村氏は「防空能力の高いイージス・システム搭載艦の使用も想定しているのか」と質問。中谷氏は「補給艦や輸送艦など大型艦艇も使用できることを想定しているが、イージス艦などについては詳細の決定はしていない」と答えた。

（吉松晃子）

馬毛島基地施設整備費の予算額(契約ベース)

年度	(単位・億円)
2012	2
13	—
14	1
15	1
16	1
17	2
18	2
19	6
20	5
21	5
22	4621
23	3865
24	1244
25	471
累計	10226

米軍再編関係分。事務費は除く。いずれも四捨五入。12～21年度は当初予算、22～24年度は当初+補正、25年度は当初案

空自、首長らと懇親会

馬毛島
先遣隊

発足祝い無料招待

西之表

西之表市馬毛島の米軍空母艦載機陸上離着陸訓練(FCLP)を伴う自衛隊基地整備に絡み、空自に馬毛島先遣隊が今春発足したことを記念する懇親会が26日、同市のホテルであった。西部航空警戒管制団が主催。無料招待として、種子島の3市町の首長や職員、議員、各種団体の関係者など計約60人、自衛隊側と合わせて約90人が出席した。同団によると、懇親会は「先遣隊新設記念行事」で、「地元代表者らと意見交換



し、信頼関係を構築する場」と位置づけている。会費の徴収はなく、同団司令部涉外室は「経費は全て自衛隊

側が負担する」と説明している。

西之表市幹部によると、1人当たりの飲食代は約6千円。「接待と受け止められかねない」として、八板俊輔市長ら複数の市関係者分の実費を、事前に会場のホテルへ支払ったという。

中種子町の田淵川寿広町長は「今後、自衛隊側に実費を支払う」としている。

南種子町の小園裕康町長は「無料招待だと確認している」と述べるにとどめた。

馬毛島先遣隊は3月、空

馬毛島先遣隊新設を記念する懇親会

26日、西之表市のホテル

自衛隊が、地元の首長、議会、有力者らを無料招待は異例中の異例。

「官官接待」の疑いも。

会親懇自空

中種子、実費支払う

南種子も支払う方向

西之表市馬毛島の自衛隊基地整備に関連し、馬毛島先遣隊の新設を記念した懇親会で空自の西部航空警戒管制団が種子島の3市町長や業界団体代表らを無料招待した件で、中種子町は27日、会場となったホテルに

会費相当分を支払ったと明らかにした。南種子町も支払う方向で調整している。

懇親会は西之表市で26日にあり、アルコールを伴う飲食(1人当たり約6千円)が提供された。同団は「経費は全て自衛隊側が負担す

八板俊輔市長と職員の計6人分を25日にそれぞれの私費でホテルへ支払った。

同団はホテルとの契約を変更し、総額から各市町関係者らの支払い分を差し引いて対応する方針。

(大川源太郎)

今回は九州全域が訓練場となった自衛隊統合演習（実動演習）

民間港でミサイル搭載

自衛隊統合演習



鹿児島市の鹿児島港本港区北ふ頭で24日、海上自衛隊のイージス艦にミサイルを搭載する訓練があった。防衛省によると、国内の民間港で海自の艦艇に実弾を搭載する訓練は初めて。有事や災害などの緊急時、民間港を使って柔軟に艦艇を運用する狙い。



クレーン車につり上げられた対空ミサイル
24日午前8時50分ごろ、鹿児島市の鹿児島港本港区北ふ頭

陸海空3自衛隊の統合演習の一環。佐世保基地（長崎県佐世保市）所属のイージス艦「あしがら」（全長165メートル、7750トン）が接岸した。弾薬は対空ミサイル2発で、敵のミサイルや航空機の迎撃を担う。

訓練は午前8時ごろ始まった。あしがらに横付けした民間のクレーン車が、それぞれ長さ約10メートルの白い直方体の容器に入ったミサイルを慎重につり上げた。艦上では数人の隊員が待ち受けていた。

甲板にある垂直発射装置へ1発ずつ納めた。ミサイルを搭載したトラックは23日、佐世保弾薬整備補給所を出発。訓練に合わせ、陸路で24日午前北ふ頭へ着いた。あしがらは23日から寄港しており、25日に佐世保に戻る予定。海自は青森、神奈川、京都、広島、長崎に艦艇の拠点となる基地を持つ。通常はそれぞれの母港で弾薬を補給する。今回は、母港から離れて任務に当たる艦艇が、寄港しやすい位置にある民間港で弾薬を円滑に搭載できるか検証した。



甲板に並ぶ垂直発射装置へ1発ずつ納めた。対空ミサイルは24日午前9時ごろ、鹿児島市の鹿児島港本港区北ふ頭に搭載された。あしがらは報道官に「民間港で海自の艦艇に弾薬を搭載する訓練は、作戦継続上極めて重要な役割を果たしている」と話した。

あしがら艦長の1等海佐は報道官に「民間港で海自の艦艇に弾薬を搭載する訓練は、作戦継続上極めて重要な役割を果たしている」と話した。

自衛隊統合演習

鹿空港で哨戒機に弾薬

海自鹿屋が搭載訓練



海上自衛隊は30日、霧島市の鹿児島空港で海自鹿屋基地（鹿屋市）のP1哨戒機への弾薬搭載訓練を行う自衛隊員＝30日午後1時ごろ、霧島市の鹿児島空港（田中公民撮影）



P1哨戒機への弾薬搭載訓練を行う自衛隊員＝30日午後1時ごろ、霧島市の鹿児島空港（田中公民撮影）

哨戒機に弾薬を搭載する訓練をした。防衛省によると、国内の民間空港で自衛隊艦艇に弾薬を搭載する訓練は初めて。基地の滑走路が攻撃を受けて使えなくなった場合に備えて、民間港の近くで訓練する。あしがら艦長の1等海佐は報道官に「民間港で海自の艦艇に弾薬を搭載する訓練は、作戦継続上極めて重要な役割を果たしている」と話した。

20日から鹿児島など全国の民間港で自衛隊艦艇に弾薬を搭載する訓練が始まった。陸海空3自衛隊の統合演習の一環。P1哨戒機は午後0時10分ごろ、北側から滑走路に進入して着陸した。駐機場の南側、民間港の近くに約30分後、隊員らが機体前方に集まり、弾薬（訓練用の模擬弾）を搭載している様子が見られた。午後2時半ごろ、離陸した。空港アタックで哨戒機を見つめていた伊佐市の女性も霧島市（長崎県）の民間港で訓練した。防衛省は「民間港で艦艇に弾薬を搭載する訓練は、作戦継続上極めて重要な役割を果たしている」と話した。

自衛隊統合演習

奄美で対艦ミサイル訓練

南西防衛強化アピール

防衛省統合幕僚監部は23日、侵攻してきた艦艇をミサイルで撃つ「対艦戦闘訓練」の一部を奄美市と大和村で報道公開した。海洋進出を強める中国を念頭に、南西地域の防衛力強化をアピールする狙い。近く保有する反撃能力（敵基地攻撃能力）を見据え、部隊が展開する流れを確認した。

今回の訓練では奄美大島の約10カ所に展開する。現在の12式ミサイルの射程は百数十キロとされるが、千キロ程度に延ばすよう開発している。計画では、この能力向上型を大分や熊本、沖縄に配備する。中国本土を射程に入れ、敵基地攻撃能力を持つことになる。大分のミサイル部隊トップの横田紀子陸将補は「抑止力のため重要な部隊。こういう形で民有地を使える環境に感謝したい」と話した。



公開された88式地对艦誘導弾の発射機＝23日、奄美市笠利の旧奄美空港
公開された無人偵察機「スキャンイーグル2」＝23日、大和村の嶺山公園
(いずれも中野あずさ撮影)

霧島市の鹿児島空港では23日、前日と同様、新田原



陸自訓練 長崎の民間空港使用

オスプレイで離島輸送

防衛省統合幕僚監部は23日、陸上自衛隊佐賀駐屯地（佐賀市）の輸送機V22オスプレイを使い、陸自相浦駐屯地（長崎県佐世保市）の水陸機動団を、離島にある民間の福江空港（長崎県五島市）へ輸送する訓練を報道公開した。20日から鹿児島など全国で始まった、陸海空3自衛隊の統合演習の一環。南西諸島防衛を念頭に両駐屯地の連携を強める狙いで、一体運用が本格化した。



水陸機動団の隊員を乗せ離陸するオスプレイ
27日午前11時半ごろ、長崎県佐世保市の相浦駐屯地

午前10時半ごろ、相浦駐屯地の滑走路で小銃や迫撃砲を装備した水陸機動団の隊員十数人がオスプレイに搭乗。砂ほりを巻き上げながら離陸した機体は福江空港へ向かった。オスプレイは2機編隊で計4機が参加。相浦と福江空港間約100キロを飛行した。防衛省は「民間港で艦艇に弾薬を搭載する訓練は、作戦継続上極めて重要な役割を果たしている」と話した。



陸自オスプレイ輸送訓練
九州市川辺町本別府

九州市川辺町本別府

馬毛島基地 工事関係者最大6000人 来年2月、防衛省見通し

西之表市馬毛島で進む自衛隊基地整備について、防衛省は12日、市役所であった市との協議で、工事関係者の人数がピーク時で最大6千人に上る見通しを示した。種子島の人口の2割超に当たる。ピークは来年2月を想定しており、滞在先は馬毛島が約4千人、種子島約2千人。



同省が工事関係者数の推移を明らかにするのは初め
基地整備では種子島を含め最大で約6千人の工事関係者が動員される11月12日、西之表市馬毛島（本社チャーター機から田中公民撮影）21

安保激変
@かごしま



て。4月1日時点で種子島に約810人が滞在し、12月には約2千人に増える。1月に基地本体工事が始まって以降、市民から宿泊施設や住宅の不足、生活ごみの処理などへの懸念が相次ぐ。同省や市の対策遅れ

2023年	4月	5月	6~8月(予定)
飛行場		伐採	造成
飛行場関連		伐採	造成、基礎
港湾		基礎捨て	石本体
仮設施設		宿舎、沈砂池、プラント	

40室を見込成時期に左右されるの「えない」とし者による種子島利用は、でライトパン両を中心約同省と市の外非公開。飛設などの進の工事予定、て実施してい置の説明もあ終了後、ハ「具体的な数はよかつた。対応していく

事業者へ指

西之表市馬毛島の自衛隊基地整備を巡り12日あった市と防衛省の協議は4カ月ぶり、基地本体工事が始まってから初めてだった。生活への影響を懸念する市民らの声を受け、同省が示した対応は工事受注者への指示の徹底が中心。設備投

馬毛島基地着工1カ月

住民生活を直撃

西之表市馬毛島で米軍空母艦載機陸上離着陸訓練（FC-LT）移転を伴う自衛隊基地の工事が始まって12日で1カ月になる。市街地では作業服姿の工事関係者や県外ナンバーの車両が目立つ。今後さらに数千人単位で投入される見通しで、ごみ処理など住民生活への影響が懸念される。事業者の防衛省は対策について何ができるかと市と相談する「と意を切らず、地元は不安を拭えない。



馬毛島の基地工事が始まり、漁船に乗り込む工事関係者11月12日、西之表市の西之表港

作業員数千人か 境界線 水量不足 懸念

「事業主として、作業員の数やスケジュールを把握すべきではないか。10日、西之表市役所であった防衛省による市議会への説明会。受け入れる側として知りたい情報さえ「確かな人数は…」と口ごもる同省担当者に、市議の1人が語気を強めた。

安保激変
@かごしま

■現実的課題
人口約1万4千人の同市にとつて、作業員の大量流入の影響は計り知れない。とりわけ危惧されるのが生活ごみだ。市内にある種子島清掃センターで処分できる可燃ごみは1日約22トで、処理量は普段から95%前後に達している。運営する種子島地区広域事務組合は「すでに受け入れの限界」と悲鳴を上げる。市に長期滞在している作

業員の多くは住民票を移さず、転入手続き時の行政サービスの説明を受けていないとみられる。このため、

指定ごみ袋を使うルールが守られないケースも散見されるという。市内各地にはプレハブの作業員宿舎が建てられ、夏場になれば水道に過剰な負担がかかる恐れも出ている。特に市街地近くの西地区に集中しており、水道課は「仕事後の入浴時間が重なるといったことで、水圧が弱まることもあり得る」と警戒する。

■責任の所在
こうした不安要素は、市

馬毛島の作業員 2月6090人

安保激変
@かごしま

防衛省は24日、西之表市馬毛島の自衛隊基地整備に従事する工事関係者が2月26日時点で前回発表時（昨年12月23日時点）と同じ6090人だったと公表した。ピークとしている6千人規模を維持した。種子島の内訳は賃貸物件が10人増の410人、仮設宿舎が10人減の1160人。宿泊施設190人、自宅など1220人は変わらず、種子島全体は前回と同じ1890人だった。

馬毛島（仮設宿舎）は4200人で、昨年4月以降から同数となっている。（出水 終）



新田原基地上空を飛ぶ
F35Bステルス戦闘機
短距離離陸、垂直着陸が「売り」だが、この日は垂直着陸は
行われなかった。

同じく新田原の
F15戦闘機



どちらの戦闘機も、
馬毛島での訓練が
計画されている。

2026年1月 着工3年、基地建設が進む馬毛島



マゲシカ絶滅の危機、防衛省の調査は不透明

(第3種郵便物認可)

西日本新聞(夕刊)

重機がうなりを上げる中、マゲシカ(手前)が立ち止まってこちらを見つめていた



マゲシカ重機の傍らで



自衛隊基地の建設工事が進む馬毛島。本社へりから北側を望むと、シカの群れが島南部(写真中央付近)を移動していた

基地建設進む馬毛島



24 自衛隊基地の建設工事が進む鹿兒島県西之表市の馬毛島上空で2月19日、本社へりから島に生息するマゲシカを撮影した。

種とされる。環境省レッドリストで、馬毛島のニホンシカとして「絶滅のおそれのある地域個体群」に分類される。防衛省が昨年4月に公表した調査結果では、推定で千〜1200頭が生息する。周囲16・5キロの島の全景などを撮りながらマゲシカを探した。なかなか見つからず、島南部でへりの高度を下げて見渡すと、草地を歩く1頭を見つけた。超望遠ズームレンズ越しにのぞくと、角が生えた姿を確認できた。付近には10頭以上の群れもいた。

絶滅の恐れ…どこへ行く?

こちらを見つめるシカたちの奥では、重機が稼働して土煙が上がっていた。わずか1時間ほどだったが、強く印象に残る空撮取材となった。

(中村太一)

②馬毛島に生息するマゲシカの群れ
①島に点在する緑地で立ち止まるマゲシカ



マゲシカ700〜1000頭

防衛省 馬毛島で生息数推定

西之表市馬毛島への米軍空母艦載機陸上離着陸訓練(FCLP) 移転を伴う自衛隊基地整備を巡り、防衛省は16日、島固有のニホンシカ亜種マゲシカの個体数が現時点で700〜千頭程度とする推定結果を発表した。防衛省は「生息数はこれまでと同程度で推移している」とみられる」と説明した。

防衛省によると、島内の開けた場所での目視と見通しの悪い樹林内に置いたセンサーカメラの二つの調査から推定した。目視は昨年4、6、10、今年1月にそれぞれ2日ずつ8人で1日7時間調べた。最も多かったのは4月19日の1009頭、最も少なかったのは10月20日の284頭だった。6、10月は4、1月の半程度と極端に少なく、「暑さで草地の日陰に潜み、目

視調査で見つけにくかった」として推定から除いた。カメラは昨年4〜5月、6〜7月、10〜11月、12月〜今年1月にそれぞれ1カ月間、見通しの悪い樹林内に13台設置。70〜188頭が確認された。2023年1月に公告した環境影響評価書では、同じ手法で調査し、700〜千頭、24年4月に発表した

調査では千〜1200頭と推定していた。推定は目視の低い値にカメラの高い値を加えた数を下限、目視の高い値にカメラの低い値を加えた数を上限の頭数とする手法を採用した。開けた場所にシカが多い場合は樹林内に少なく、開けた場所に少ない場合は樹林内に多いと考えた。(永山一樹)

馬毛島で作業員死亡

自衛隊 基地工事 重機ごと穴に転落

馬毛島基地事故 着工3年で13件 1人死亡8人負傷

安保激変

@かこしま

鹿児島県は16日、国が進める西之表市馬毛島の自衛隊基地工事で、2023年1月の着工から約3年で13件の事故が発生し、1人が死亡、8人が負傷したと明らかにした。県は事故が発生して防衛省から報告があるたびに再発防止策を求めている。死亡事故は24年10月に起きた。スリランカ国籍の建

設作業員が排水をためる穴に油圧ショベル機ごと転落して亡くなった。25年9月には作業船と衝突した警戒船（漁船）が海上で大破。25年12月と今年1月は工事中の事故で作業員のけがが相次いだ。

防衛省は1月7日、着工以来初めて工事の大部分を止め、安全対策を総点検した。

県議会総合政策建設委員会で県が報告した。委員会では環境保全措置や漁業への影響、資機材の地元調達などについて委員が質問し、担当課が回答した。

(永山一樹)

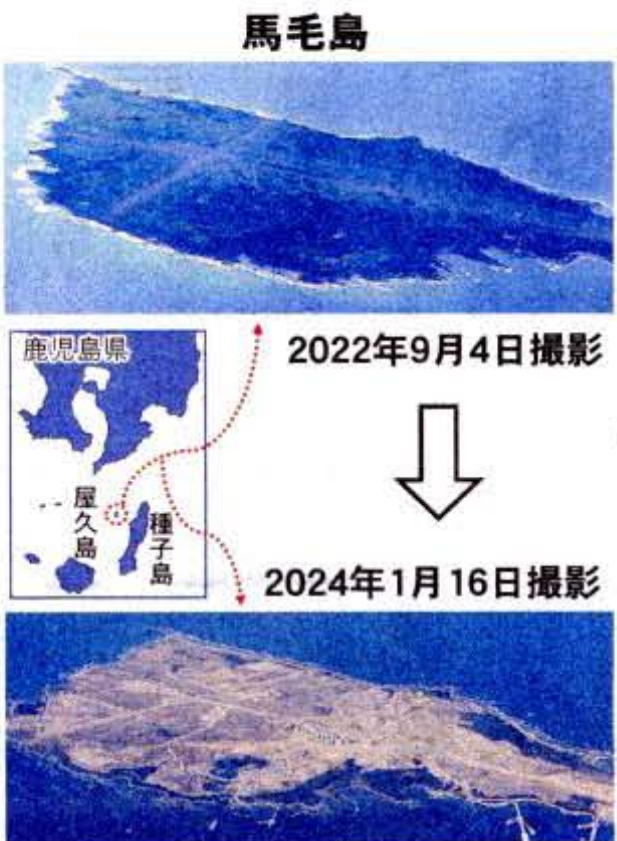
馬毛島基地建設の現場

「馬毛島で働いていた時は人間扱いされていなかった。劣悪な職場や住居に不安を感じた。こう語るAさんは、鹿児島県の種子島から約12キロ離れた馬毛島（同県西之表市）で急ピッチに進む自衛隊基地建設の作業員でした。半年間、馬毛島に住み込みで働きましたが、Aさんが従事したのは基地

「人間扱いされていない」

劣悪な職場や住居に不安を感じて退職しました。

「離島の離島」と言われる馬毛島。ここで米空母艦載機離着陸訓練（FCLP）移転のため、島を丸ごと巨大基地にする前代未聞の工事が行われています。



馬毛島

2022年9月4日撮影

2024年1月16日撮影

出典：上の写真は日本共産党の田村貴昭衆議院議員撮影、下の写真は長野広美西之表市議撮影



自衛隊基地の建設が進む馬毛島。2月24日、鹿児島県西之表市

「半年間で10キロやせた」

1面のつづき

体調不良で退職も

「Aさんは、求人検索サイト「アンテナ」を見つけた。馬毛島での作業員に応募し、島に消火用の水がなく、火が燃え広がったため凍凍食を食した。リゾット地、芋、食がなくなり1日1「休日には釣りやレジャーを兼ねる」などのうたい文句が並んでいました。た「宇宙に一番近い」とは口。また、海が荒れて飲料水が断水した。種子島宇宙射撃場の種子島宇宙

馬毛島基地建設 元作業員の告発



種子島から馬毛島に向かう作業員。提供：日本共産党の田村貴昭衆議院議員

食事は全て冷凍食品 断水も

「3日間連続で断水になり、入浴や洗濯ができない。部屋は3〜4畳で、隣の部屋から話し声も聞こえます。休日に釣りにおろか外出もほぼできなかったといえます。派遣会社は50万円くらい」と言われていたが、実際は40万円前後で、賃金未払いなどのトラブルにも悩まされまし。大規模な事故に巻き込まれたら、急病になったりした時に適切な医療を受けられるのか。常に不安がつきまわっていました。『体調不良で入院して仕事を辞める人を何人も見た。診療所はあるが、医師の定期診察は週に1回だけで、海が荒れば来れない。ドクターヘリを止められる場所もないし、具合が悪くなったら死ぬだろうと思っていた』

防衛省「関知せず」

本紙は防衛省に、劣悪な住環境や労働環境を把握しているのかと質問。同省は「労働関係法令に従い、適切に進めている。受注者等において法律に基づき、安全衛生その他の労働環境の適正な整備に配慮している」と答えた。同省は「労働環境の整備は受注者の責任であり、防衛省は関知しないという姿勢です。この回答をAさんに伝

の核心理とも言う滑走路建設でした。

「上司は『慌てないでケガしないように』って言うが、昼休みには『なんでこれしか終わってないんだ』と責める。口答えすれば辞めさせられるかもしれず、いつもせかされていた。ダンパーがひっくり返る事故もあったが、上司から『内緒にしろ』と言われ、もみ消しばかりだった」と語り、隠れいが横行する実態を明らかにしました。

その背景には、防衛省が一刻も早く基地を米軍に差し出すため、2023年1月の着工から工期をわずか「4年程度」に設定していることが挙げられます。しかも滑走路については前倒しでの運用開始が予定されています。

防衛省は、環境影響評価（アセスメント）の手続き中にもかかわらず、建設費を予算計上し、前倒しで着工。22年10月に同省から支出委任を受けた国土交通省の九州地方整備局が滑走路や係留施設など6件の工事を発注。企業の選定基準には、「早期に運用を開始したい防衛省からの提案」（国交省関係者）で、「施工期間の短縮」という言葉が並びます。また契約方式も「技術提案・交渉方式（ECI）」を適用。通常は設計者と施工者で別々に作業を進めますが、ECIでは設計段階から施工者が技術協力を行えるため、工事着手までの期間を短縮できる特徴があります。工事自体がスピード優先でした。

(3面)UJUN

アイアン・フィスト



米オスプレイが海浜公園に着陸して、米海兵隊が展開する訓練が行われた



種子島にも自衛隊施設＝馬毛島と一体の基地化

種子島の施設整備

自衛隊馬毛島基地を整備するにあたっては、種子島において、自衛隊馬毛島基地の一部として、馬毛島の施設の安定的な運用及び適切な維持管理を目的とした施設を整備することとしています。

今後、関係機関等との調整を経て、決定していくこととなります。

安定的な運用・適切な維持管理のための施設

中種子町には、**管理事務所**、**練成訓練施設**、**物流倉庫**を、南種子町には、**車庫**、**車両整備工場**、**自衛隊ヘリポート**を整備する予定です。今後、これらの施設の設置場所等について検討を進めていきます。

管理事務所

種子島における業務のために使用するほか、悪天候時に馬毛島に渡れない場合における基地機能の維持及び施設管理等のために設置。

練成訓練施設

自衛隊員の練成訓練、悪天候時に馬毛島に渡れない場合における活動拠点のために設置。
また、地域住民との交流の場としても活用。

物流倉庫

応急用資機材の保管や種子島において調達した資材や食料品の一時的な保管のために設置。

車庫

通勤車両など、種子島において使用する自衛隊車両を保管するために設置。

車両整備工場

通勤車両など、種子島において使用する自衛隊車両の維持管理のために設置。

自衛隊ヘリポート

人員や物資の輸送のために設置。

宿舎・港

自衛隊馬毛島基地に恒常的に勤務する自衛隊員は、**150名～200名**程度を見込んでおり、自衛隊員とその家族は、**種子島に整備する宿舎に居住**することとしています。

自衛隊員等の宿舎の配置

- 宿舎は、**西之表市**、**中種子町**、**南種子町**に配置する計画です。
- 具体的な設置場所等は、種子島内での用地調査をもとに、部隊運用、交通の便、周辺環境などの様々な条件を考慮し決定します。



港の活用

- 通勤のために、種子島～馬毛島間を運航する定期便を、民間業者に委託する予定です。
- 中種子町の**浜津脇港**は、種子島の中央に位置し、宿舎との位置関係等を踏まえ、**通勤港**として活用したいと考えています。
- また、港の利用状況に応じて、**西之表港**などの港も活用する計画です。



※写真はすべてイメージです



将来、種子島内に、多くの自衛隊員とその家族がお世話になります。島民の皆様とより良い関係を築いていきたいと考えています。



種子島に立ち並ぶコンテナハウスや作業員宿舎

家賃は10万円～20万円とも言われ

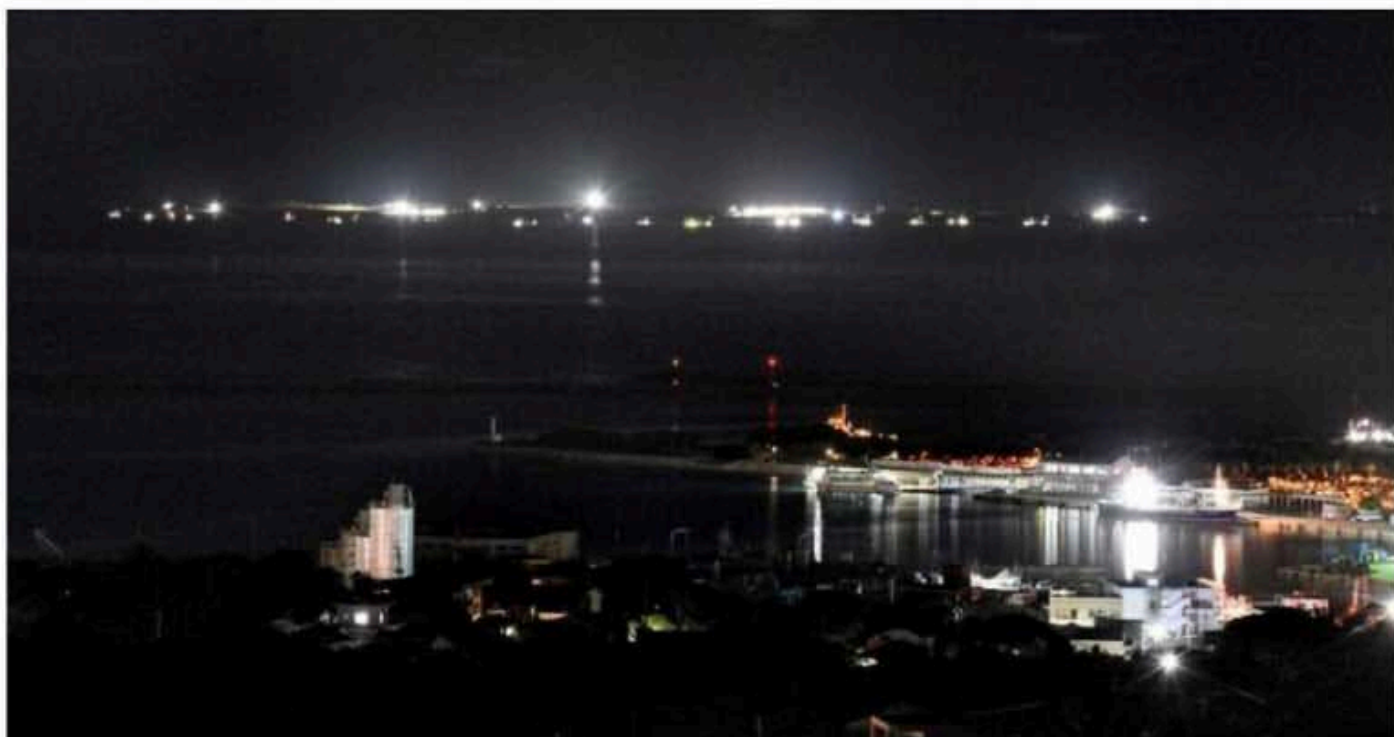
「ホテル」として素泊まり1泊13200円のコンテナハウスも！



馬毛島揺らぐ地場産業

人材流出が止まらず

基地工期3年延長に不信感



「馬毛島基地 工期3年延長」。9月11日、西之表市の農業折口金吉さん(72)は、新聞記事に見入った。「急いで工事を始めるからこうなった。完成に10年以上かかるという話も関連業者から聞かれる」。種子島から西へ約10キロ。馬毛島で進む自衛隊基地整備への不信感は増すばかりだ。

工事関係者や隊員の居住による交流人口の拡大と地域の活性化を期待し、基地推進派の団体会長を務めた。本格着工から約1年9カ月。「国も事業者も顔が見えない。地産地消の約束を守る努力もなく、農業は人手を取られるだけ。これでは他の産業との格差が広がってしまう」と漏らす。国は馬毛島周辺の漁場に与える影響を踏まえ、地元種子島漁協に約22億円の補償金を支払った。組合員にも配分されたものの、工期延長に不安を抱く漁業者もいる。工事関係者を漁船で送迎する60代男性は「作業員の増加で、1回4往復になる」と明かす

気力も体力もなくなるだろう。水揚げが低調だと仲買人も困り、やがて市場は崩壊するのではないかと地場産業を揺るがす巨大な国家プロジェクト。人材は引く手あまたとされ、中でも介護・福祉分野は工事関係者の仮設宿舎の食事や室内清掃といった仕事に流れるケースが少なくない。

市は2023年度から介護・福祉をはじめ、医療や子育て、1次産業など8分野に就職奨励金の給付を始めた。だが、離職者を補うほどの成果はない。市社会福祉協議会の種子島秀洲会長(80)は「ヘルパーがおらず、基地があれば騒音の心配もある。高齢者が住める環境ではなくなってしまふ」と危機感を募らせる。

安定収入が見込めるはずの公共工事とはいえ、建設業者にも「誤算」が続く。「とにかく人が足りない中で、積極的に馬毛島に関わろうとする業者は少ない」と

者を県外に引き抜かれた例もある。業界は4月から残業規制が適用され、人手不足は深刻さが増す。工期延長は「離島の離島」という特殊な施工環境が原因だ。ロシアのウクライナ侵攻などによる建設資材の高騰も続く。国の見通しの甘さは否めない。

鹿兒島市の建設業関係者は「下請けで仕事を取っても、工期が長引けば利益が出るか見通せない」とほや。同市周辺に甚大な被害をもたらした1993年の「8・6水害」では急増した復旧工事を受注しようとして、過剰に設備投資した業者の倒産が相次いだ。「8・6の記憶があるから慎重になる。適正な規模の仕事が継続して入る方がありがたい」

馬毛島の自衛隊基地建設強行

“騒音も振動も深刻”

自衛隊が米空母艦載機離着陸訓練(FCLP)移転を含めた自衛隊基地建設を強行する鹿兒島県の馬毛島(西之表市)。住民生活や地域経済を顧みない工事の強行は、地域の基幹産業である農業・漁業に深刻な影響を及ぼしている。(田中正一郎)

業が2週間は早く終わっている。圃場(ほじょう)から工場へサトウキビを運ぶ大型トラックのドライバーもいない」と語ります。製糖工場で10人以上が別の出ていると証言。別の農業者は、例年、運搬車1台ごとに行っていた糖度の計測が持ち込み一度に1回に減るなどの影響を語りまし

西日本

レポート

鹿兒島

リポート

種子島 農漁業に打撃

午前7時、馬毛島に近い種子島・西之表市の住吉港。漁村の小さな港に3隻の遊覧船・旅客船が停泊し、周囲がうっすらと白み始めるなか、2台の大型バスや乗用車から100人余りの建設関係者が次々船に乗り込み馬毛島に向かいます。周辺住民からは「枕が揺れるほどの騒音と振動がある」との声も。種子島の複数の港で繰り返される風景です。



住吉港から馬毛島へ向かう船に乗り込む建設関係者=2023年12月26日、鹿兒島県西之表市

輸送費に8万円のアサヒガニなどを取る漁業者の男性は、作業員を馬毛島へ運ぶ漁船には1往復8万円の輸送費が払われており、安定した収入の見込める基地建設に多くの漁師が移っているといえます。自身についても「馬毛島の一番いい漁場に仮設橋ができたうえ、近づけば警戒船がついてくる。漁

西之表漁船3割 基地整備関わる

馬毛島



鹿兒島県は27日の県議会代表質問で、種子島漁協西之表地区の漁業者の約3割(漁船218隻のうち66隻)が西之表市馬毛島に渡る交通船など自衛隊基地整備に関わる船舶業務を担っていると説明した。

昨年12月22日時点で馬毛島の基地整備には2800人が従事。うち1800人

は種子島1市2町の仮設宿舎や宿泊施設で暮らし、交通船で行き来している。県水産振興課によると、漁業者は工事作業船などの監視にも携わっている。

昨年4月から1月までの水揚げ量は前年同期比で約3割減り、トビウオやトコブシ、キビナゴは約7割減った。平林孝之商工労働水産部長は要因について、海洋環境などの変化や燃油高騰、交通船業務などの従事に伴う出漁機会の減少、馬毛島周辺海域の漁業制限などを挙げた。

(永山一樹)

基地着工1年 安保激変 @馬毛島

③

種子島の医療拠点の一つ、種子島医療センター(西之表市)は年明け、多くの患者で混み合っていた。待合ロビーの即席のパイプ椅子にも座れず、立って待つ姿も目立った。

「待ち時間が倍以上の3〜4時間になった」と同市の70代男性。薬をもらいに定期的に通う同市の70代女性も「昼の12時半の乗り合いタクシーで帰っていたが、最近は何に合わない」と困り顔だ。

現在、同センターの外来は1日450〜500人。1年前に馬毛島の基地本体整備が始まってから増加傾向にある。市内の別の医療機関も同

地域医療

将来的に見込まれる工事関係者は最大6千人規模。種子島の人口約2万7千人の2割超にあたる計算だ。離島は都市部に比べて医療資源が乏しく、住民は急激な作業員の流入を警戒。患者を受け入れる医療機関は備えを進める。

同センターは混雑解消のため、工事関係者はできるだけ午後を受診するよう業者などに要請した。昨年7月に馬毛島への巡回診療を始めたほ



か、2月には島内に診療所を開く予定だ。高尾尊身院長(75)は「住民も工事関係者も命は平等。やれることをやらなければ」と話す。

種子島から海を挟んで10キロ以上離れた馬毛島で懸念されるのは事故だ。昨年12月は作

同市の百合砂診療所の田上容祥院長(76)は「朝から晩まで引っぱりなしに患者が訪れ、検査に追われた。看護師は休憩する間もなく疲弊した」と振り返る。「今後人口が増えれば、再び同時流行する可能性は十分ある」と気をもむ。

市民団体や地元議員は昨年10月以降、相次いで国と県に対策を求めている。種子島屋久島の1市3町の議員が参加する「種子島屋久島議会議員大会」では、国による医療従事者の派遣や財政措置を要望する共同提案がまとまった。

大会で趣旨説明をした南種子町の福島照男議員(70)は「人が増えれば島民に十分な医療が届きにくくなる恐れがあり、医療者の負担も大きくなる」と指摘。「国は基地の建設だけでなく、医療面の支援もしてほしい」と訴える。(蘭田安未)

作業員急増混雑に拍車

様といい、以前は70〜80人だったところが、雨の日は午前中だけで1000人を超える。医師の高齢化などで診療所の閉鎖が相次ぐ中、工事関係の患者が増え、混雑に拍車がかかったとみられている。

業員が胸や足を骨折する重傷を負った。大規模事故となれば複数の患者搬送が必要になる。高尾院長は鹿児島市に運ぶケースを想定し、「すぐにヘリを飛ばせる仕組みが必要ではないか」と指摘する。

人口の流入は感染症を広げる恐れもある。昨夏はインフルエンザと新型コロナウイルスが同時流行。西之表保健所管内の1医療機関当たりの平均感染者数は7月3〜9日、インフルが県平均の1.3倍、コロナが県内最多の同3.8倍だった。

市内の賃貸物件は、基地整備を契機に工事関係者に押さえられて満室が続く。家賃も高水準で推移する。不動産業者などによると、一戸建てで月30万円以上、1ルームで10万円超の事例もあった。

基地着工1年 安保激変 @馬毛島

④

サトウキビの日本北限産地とされる種子島は、収穫の最盛期を迎えている。中種子町にある島内唯一の製糖工場周辺は、刈り込んだキビを積んだ大型車がひっきりなしに行き交う。

地場産業

例年と変わらぬ冬の光景だが、今期は苦難が多かった。ハーベスターや運搬車両の運転手が、給料の高い馬毛島基地関連の仕事に流れたからだ。建設業と近い技術を持つ農業は人材の「草刈り場」と化している。

同町の農業生産法人「アグリエイト」の梶屋良幸さん(73)は「運送会社にも委託できず困っている」と話す。5

人手足りず先行き不安

割増の日当で運転手をかき集め、自前でユニック車などをそろえざるを得なかった。投資額は数千万円に上った。

年の3割に満たない。一方、少ない漁獲を奪い合うように仕入れ値は上がった。とりわけ特産のトコブシ(ナガラメ)は、主要漁場の馬毛島東岸が港湾整備による漁業制限を受けていることも

あり、競りで1キロ1万円を超えることがあった。飲食店の中には、県本土や南種子町漁協に仕入れ先を求め、動きもある。西之表市住吉で商店を営む濱上英二さん(76)は「トコブシやキビナゴは3、4割上がった。漁師も生活がかかっているから何も言えないが、このままだと漁業が先細るばかりだ」と将来を憂う。

物件所有者の貸し出し意欲を刺激し、放置状態の空き家の改修も進んだことで「街が活性化した」と前向きに受け止める声もある。とはいえ、4年程度とされる基地整備の後を見据えると、健全とは言えない状況だ。ある不動産業者は「バブルがはじけ、家賃が着工前より値崩れしないだろうか」と不安を口にしている。

種子島に滞在する基地工事関係者は約1800人。馬毛島への通勤に漁船が駆り出されたこの1年、海にも変化が起きている。

西之表市のまとめによると、種子島漁協の2023年の水揚げ量は前年の3割減。3年前に比べて半減した。全国的に知られるトビウオは前



「とうとう来たか」。西之表市の60代女性は昨夏、大家から家賃を約3倍の10万円に上げる通告を受けた。市営住宅への入居を希望したが、ペットは連れて行けない。住む場所がなくなる不安と焦りから、体調を崩しがちになったという。

先の女性は郊外に貸家を見つけたものの、新たに初期費用がかかり、勤務先に給料を前借りしてのいだ。「工事が始まる前に対策は打てなかったのか。市民は泣き寝入りするだけだ」(中野あずさ、緒方隆)

中種子町野間(緒方隆撮影)

